

日本東亞同文書院編

中國經濟全書

10

鐵策書局

日本東亞同文書院 編

(第十冊)

中國經濟叢書

常州大學圖書館藏

綫裝書局

第十冊

第五輯（二） 明治四十一年 一九〇八年 東亞同文會

.....
—

第五輯

(二)

明治四十一年

一九〇八年

東亞同文會

第八款 沿路ノ狀況

第一項 沿路ノ都市

漢口ノ北端玉帶門外漢口驛ヨリ北京前門マデ停車場七十有八ヲ有スレドモ多クハ在來ノ城市ヲ距ル近キモ四清里達キハ二十清里ヲ隔ツル原野中ニ設立シ貨客運輸ノ便ヲ得ルコト少ク而シテ支那在來ノ都市ハ今ヤ大概寂寞ヲ極メ旅行者ノ常ニ怪ム所ナリ蓋シ此鐵道布設ノ目的ハ北京漢口間南北ノ連絡ニアルヲ以テ成ル可ク短捷ノ線路ヲ選ビ經費ノ節約ヲ計リタルニ因ルナル可シ此線路ノ兩端ナル二都ハ一ハ四百餘州ノ首府トシテ一ハ支那ノ「シカゴ」市トシテ世ニ知ラルルモノナレバ此ニ説クヲ要セズ今途中重要ナル都市ニ就キテ之ガ概況ヲ示サントス

(一) 孝感縣 鐵道ハ城外三里ノ地ヲ走ルモ停車場ハ城ヲ距ル十數清里ノ處ニアリ貨物ノ運送ヲサントスルモノ其停車場マデノ搬出ニ不便ニシテ運賃ノ不廉ナルニ反シ城市ヨリ直ニ漢口ニ達ス可キ水路アリテ交通ニ便ナレバ多クハ鐵道ニ依ラザルモノ、如シ近來資本家ハ資本ヲ携ヘテ漢口ニ去リ年少子弟ハ武昌ノ學堂ニ出デ或ハ漢口ノ商家ニ入り農作、工業、商業共ニ振ハズ只棉花、胡麻、雜穀ノ生産アルノミ漢口ヨリ此地マデ七十四吉米突トス

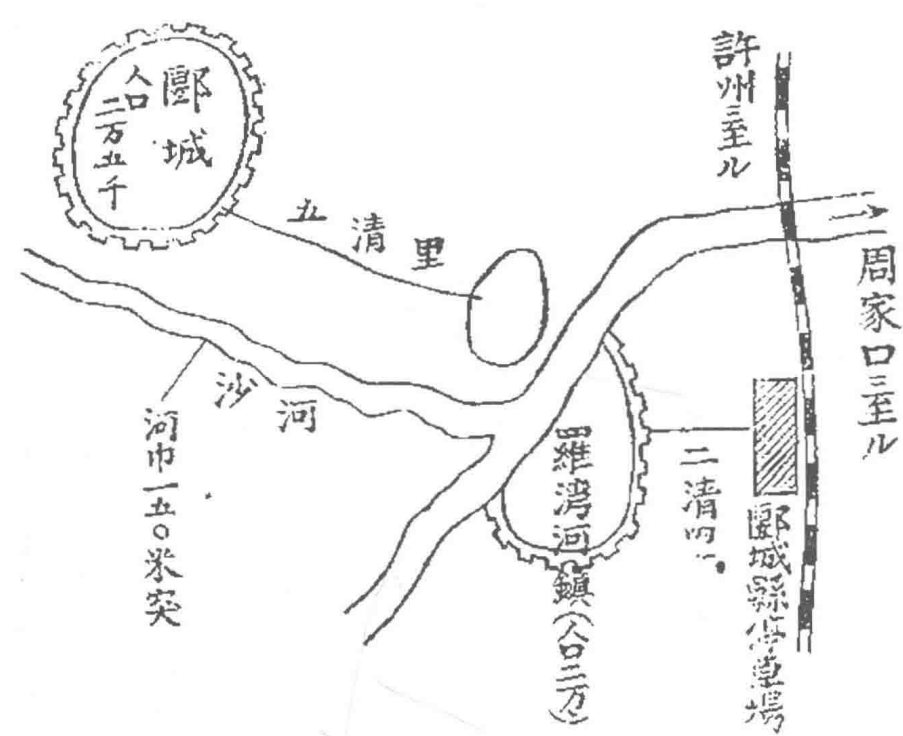
(二) 廣水店 漢口ヨリ百五十三吉米突河南ノ境ニ近キ山岳ノ麓ニアリ武信關ノ險ヲ控ヘ兵備上或

ハ價值アランモ商業上ノ價值ナシ現在土產トシテハ只豚アルノミ到底獨立發達ス可キ都市ニアラズ此地ハ張總督ガ川漢鐵道ノ起點ヲ以テ擬シタルモ原口博士ノ忠告ニ從ヒテ中止シタル處ナリ

(三) 信陽 全線中最モ注目ス可キ驛ノ一ナリトス漢口ヲ距ル二百十八吉米突鄂豫釐金局アリ外人ノ住宅アリ二三ノ倉庫アリ古ヨリ刑名衡繁ノ地ニシテ地丁銀一萬六千六百四十五兩、雜稅一千七百七十三兩ノ收入ト穀物二萬五千石ノ收穫アリ商業ハ甚ダ振フト謂フニアラザレドモ近時漸ク大豆豆糟等ノ產地トシテ外國商人間ニ知ラル

(四) 新店 一寒村ニ過ギザリシガ絶好ノ避暑地トシテ内外人ニ知ラル、鷄冠山ニ達スル下車驛トシテ近時有名トナリ夏季漢口ト此地トノ間ニ避暑列車ヲ特發ス鷄冠山ニハ外國人ノ家屋別荘等二十四軒アリ日本人ノ所有地建築物モアリテ夏季ニ至レバ頗ル賑フナリ

(五) 鄭城 此處ヨリハ河南有數ノ貿易場タル周家口ニ到ル支線ノ布設計畫アリ又舟楫ノ便アレバ將來必ズ發達スルモノアル可シ然レドモ在來ノ城市ハ停車場ヲ距ルコト遠ケレバ將來ノ市街ハ羅灣河鎮ト停車場附近ニ建設セラレ鄭城ハ鐵道ノ恩惠ヲ蒙ルコト少カル可シ當城ノ外國品ニハ零細ナル小間物品アルノミ此等皆漢口ノ支店、出張店ヨリ送ラレタルモノナリ商業稍旺ニシテ輸出貨物ハ蒟蒻九萬餘石、小麥一萬七千餘石、黃豆六萬餘石、蔬油五萬餘斛、羊皮一萬餘張、



アリ織布廠一ヶ所アリ學徒ヲ募リ洋布ヲ紡織セシム習藝所一ヶ所アリ織物家具類等ヲ作ル輸出
貨物ノ重ナルモノハ雞、雞蛋、猪、桃、石榴、黑棗、藕絲、蓆類等トス又草帽、繻子ハ外洋ニ行

猪五百餘口、雞七千餘隻輸入貨物ニハ京貨、
雜貨、棉花、洋布、洋紗等アリ、新工業モ
漸ク起リ習藝所ノ設アリ編草、蓆織、棉布、
毛布、紮棕帚等ノ工藝ヲ致フ此習藝所ヨリ
製出セシモノ千九百六年ニハ編草二十萬四
條アリ織紗布二百三十八疋毛布二千三百六
十六餘紮棕帚六百九十六把アリト云フ之ヲ
要スルニ鄭城驛附近ハ將來發達ノ見込アリ
(六)鄭州 開洛鐵道ト京漢鐵道トノ交叉點ニ
アリ重要ナル地トス詳細ハ開洛鐵道ノ條下
ニ記スルヲ以テ此ニ之ヲ略ス

(七)滎澤 黃河畔ニアリ北京ヨリ六百七十四
吉米突商業ハ盛ナラス工業稍見ル可キモノ

銷スルモノ約八十萬斤アリ輸入貨物ノ重ナルモノハ洋布ヲ最トス貿易ノ情況ハ鐵道布設後ト雖モ其以前ト大差ナシ糧食ハ小麥、粟、其他ノ雜穀ヲ大宗トシ高粱、大麥、黑豆、黃豆等之ニ次グ稻穀ハ最モ少シ

(八)新鄉縣 停車場ハ城ノ西門外ニアリ其北ニハ道口鐵道ノ交叉點アリテ全城舉ゲテ停車場ノ觀ヲナス產物トシテハ青鐵、錫、砥石等少許ヲ出スニ過ギザレドモ道口マデ東十三哩柏山マデ四十四哩ノ道口鐵道ノ開通スルアリ且ツ水運ノ便アリテ民船各地ニ通ズルヲ以テ將來ハ附近ノ都會衛輝府ヲ凌グニ至ル可シ尙此地ニ就キテ注目ス可キハ道口線ノ待王焦作、柏山一帶ニ煙炭ヲ產スルコト是ナリ目下ノ產額ハ鐵道ノ燃料ニ供スルニ過ギザレドモ有名ナル福公司ノジヤミソ
ンガ經營スル坑ニシテ良炭脈ヲ發見スルトキハ目今此鐵道ニ供給シツ、アル開平炭、日本炭ハ販路ヲ失フニ至ル可シ

因ニ記ス京漢鐵道ノ要スル石炭額ハ一ケ年約六萬、〇〇〇噸ナリ

(九)正定府 北京ヲ距ルコト二百六十二吉米突ノ處ニアリ山西省貨物ノ吐出口ニ當ル產物ニハ木耳、茯苓等ノ山貨アリ現今ノ情況ニアリテハ其商業ハ順德ノ下ニアリ外國貿易ノ當地ニ入ルモノハ綿布類、石油、硝子等ナリ

當地ハ又水運ノ便アリ滹沱河ノ上山西ニ通ジ下山東ニ到ルモノアリ又山西ノ太原府マデ二百五

十吉米突問ニ正太鐵路ノ將ニ成ラントスルアレバ將來山西省東部ノ礦物ト山貨トハ皆此地ニ集ル可シ正定府ノ價值アルハ正太鐵路ガ其左右百哩ノ間ニ他ノ鐵道ヲ布設セシメザル特權ヲ有シテ是非トモ此地ヲ以テ山西出入口ト爲スニアル可シ

以上列舉セルガ如ク本線ノ沿路都府ハ特別ナル二三ヲ除クノ外ハ概シテ不振ノ狀態ニアリ是レ前述セル如ク停車場ト都市トノ間隔遠クシテ鐵道運輸ノ便ヲ感ズルコト薄キト各都市ガ比較的高率ナル鐵道運費ヲ支拂ヒテ鐵道運輸ニ一切ヲ委スル程發達セザルトニ因サレド將來此等各都邑モ地方經濟ノ發達ト共ニ漸次進步スルノ日アル可シ

第二項 沿路ノ農業

此鐵道ハ直隸、河南、湖北ヲ縱貫セリ而シテ其湖北一帯ハ河南ニ接スル山脈地方ヲ除ク外平坦ナル沖積層平原ニシテ地味膏腴、小麥、大麥、大豆、胡麻、菜種、棉花等ヲ産ス

河南省ノ鐵路ノ通ズル地方ハ湖北境界ノ山岳アル處ヲ除ク外一望千里坦々タル平野ニシテ許州以北ハ稍劣リ黃河ノ南ハ黃河ノ汎濫ノ爲メ白沙多ク荒寥タルヲ免レズト雖モ其北ハ概テ膏腴ニシテ衛輝府一帯ハ頗ル肥饒ナリ元來河南省ノ如ク土地廣大ニシテ沃饒ナル處ハ他省ニ求メ難ク農業盛ニシテ耕地開ケ農家ニハ五頭乃至十頭ノ牛馬ヲ飼フヲ通例トス麥、棉花、豆、胡麻、雜穀、菜物ヲ出スコト夥シク其牛皮ノ産ハ支那第一タリ

直隸ハ車騎關以北ハ丘陵高低シテ荒野多ク沙河縣附近ハ白沙漠々タル處アルモ他ハ皆平坦廣濶ニシテ地味肥エ滋州附近ハ殊ニ勝レリトス而シテ棉花ノ產出最モ多ク高粱、麥、大豆之ニ次グ抑モ河南ト直隸トハ殆ド全部黃土即チリストホーヘン氏ノ所調 *loess* ヨリ成ル故ニ農夫ハ耕作ニ力ヲ勞スルコト少クシテ他地方ヨリモ多量ノ收穫ヲ得蓋シ「ローエス」ハ土質軟クシテ氣孔多ク水ヲ吸收スルコト海綿ニ似タルモノアリ雨降レバ水、下土ニ及ビ土中ノ無機物ヲ溶解シ且ツ空中ニ流布スル炭酸、アンモニア等ノ有機瓦斯ヲ吸收シテ土中ニ蓄ヘ以テ地上ノ植物ヲ養ヒ加フルニ四方ノ山岳、豁谷、平野ノ別ナク皆數百千呎ノ黃土ヨリ成リ毎年雨雪風水等ニテ地上數寸ノ舊土ヲ去リ新土ニ代フルヲ以テ地力弱キモノハ新陳代謝シテ地力強キモノ出ルヲ以テナリ黃土ハ此ノ如ク農作ニ利アルノミナラズ家屋建造ニモ亦便ナルモノアリ農民ノ小屋ノ如キハ一日ニシテ一層ヲ造ルコトヲ得ベシト云フ其人民ニ利便ヲ與フルコト此ノ如ク大ナルヲ以テ支那ノ文明ハ此地ニ發生シ此地ヲ目シテ中原ト稱スルニ至レリ然レドモ昔ヨリ森林ヲ濫伐セシニヨリ雨量漸次減少シ氣候亦不順ヲ來シ中原ノ富漸ク衰フルニ至レリ是レ黃土ハ肥料ヲ施スヲ要セザレドモ雨ヲ要スルコト大ニシテ雨ナケレバ地上ノ植物ヲ滋殖スルニ由ナキヲ以テナリ近來雨少クシテ數々饑饉ノ難ニ遭フニ拘ハラズ此地ニ住スル人民頗ル多ク支那國中第一位ノ人口密度ヲ示セリ以テ黃土ノ價值ヲ想像スルニ足ラン乎

第三項 京漢鐵道ノ及ボス影響

此鐵道ガ南北交通ニ及ボス影響ヲ知ラント欲セバ先ヅ道路河川ニ依ル南北往來ノ日數ト鐵道ニ依ルモノトヲ比較セザル可カラズ凡ソ南部諸地方即チ湖南、湖北、四川、雲南、貴州等ヨリ北上セントスルモノハ先ヅ十省ノ會ト稱セラル、漢口ニ來リ北部ヨリスルモノハ天津、北京ヨリスルモノトス故ニ今此等地方ヨリ道路河川ヲ通ジテ往來スル行程日數ト鐵道ニ依ルモノトヲ比較シテ論ゼントス此等交通ノ要路トシテ重ナルモノハ所謂支那五大通路及他ノ二三トス説明ノ煩ヲ避ケン爲メ之ヲ左ニ表示ス

出發地	到達地	通路ノ都邑及河川	道程哩數	行程日數
漢口	天津	(漢水) 縣旂鎮、河南、衛輝府、道口鎮(衛河)	一四八〇	五〇
漢口	北京	信陽 衛輝府 保定	二六四〇	二七
○ 漢口	西安府	(漢水) 老河口	陸水 一四〇〇	二七
○ 天津	西安府	(衛河) 道口鎮 河南	陸水 四〇〇	二七
○ 漢口	西安府	(漢水) 縣旂鎮 河南	陸水 六三〇〇	三八
○ 天津	西安府	(琉璃河) 正定府獲鹿縣 太原 河南	陸水 二〇〇〇	三〇乃至四〇

○鎮

口

西安府

(大運河) (淮河) 周家口、河南

水 未詳
陸 五七〇

未詳

四四八

○印ハ支那五大路ト稱セラル、モノ、水トハ水路、陸トハ陸路ノ行程ナリ

右ノ内漢口ヨリ天津ニ至ルモノヲ京漢鐵道ニ依ル時ハ急行列車ニテ三十六時間ヲ以テ北京ニ到ル可ク其レヨリ關内外鐵道ニ轉乘スレバ數時間ニテ天津ニ到達スルヲ得ベシ即チ僅ニ四十時間ヲ出デズシテ目的地ニ達スルコトヲ得之ヲ五十日間ニ比スレバ一ト三十トノ割合ナリ又漢口ヨリ西安府ニ達スルニモ鐵道ニ依ランカ鄭州停車場ヨリ河南府ヲ經テ西安ニ達スル陸路ヲ行クモ僅ニ十二三日ヲ以テ達スルヲ得ベシ即チ漢口ヨリ最捷ノ老河口、道口鎮ノ日程ノ半ニ過ギズ況ヤ鄭州ヨリ河南ニ至ル鐵道布設工事中ナレバ此線路ノ成ル曉ニハ更ニ數日ヲ減ジ得可シ天津ヨリ西安府ニ至ルニモ鐵道ニヨレバ北京マデ關内外鐵道ニヨリ北京ヨリ鄭州マデ本鐵道ニ坐乘ス可ク此時間合計三十八時間半トス即チ發程第一日朝七時十八分ノ北京行列車ニテ天津驛ヲ發シ正午十二時半北京發ノ漢口行急行列車ニ轉乘スル時ハ第二日午後五時二十三分ニ鄭州ニ着ス可シ此レヨリ陸路西安ニ往クモ十二三日ニシテ到達スルコトヲ得ベシ若シ開洛鐵道成リ一時間十七哩ヲ走ル汽罐車ヲ用フルトスレバ鄭州河南間五時間弱ニテ到達スルコトヲ得可ク西安ニ達スル日數ハ更ニ五六日ノ減少ヲ見ル可シ若シ又此開洛線更ニ延長シテ西安ニ到ルアラバ天津漢口

何レヨリスルモ三日ヲ出デシテ達スルコトヲ得ベシサレバ脈旗鎮、周家口、獲鹿ノ三路ハ鐵路ノ延長ト共ニ漸ク衰フルニ至リ老河口及道口鎮ハ比較的安キ運賃ノ水路ヲ有スレバ稍暫ク衰ヘザル可シト雖モ終ニ前三路ト共ニ衰ヘテ京漢鐵道ニ歸スルノ日アルヤ明ナリ若シ又與漢鐵道ニシテ全通センカ一路直ニ湖南、廣東ヲ橫斷シテ支那ノ名港廣州及ビ南清第一ノ外國貿易場タル香港ニ通ズ可ク斯クテ京漢鐵道ハ支那交通上愈ヨ重ヲナスニ至ル可シ而シテ本鐵道ガ支那交通ニ及ボス影響斯ノ如ク大ナルヲ觀ンバ其農鐵商業等ノ經濟的事業及ビ政治、軍事、社會ニ及ボス所ノモノ如何ニ偉大ナルカ知ルベキナリ試ニ漢口玉帶門外ニ停車場ノ設置セラレタル一例ニ就キ之ヲ觀ルニ漢水ヲ上下スル貨物ノ積卸之ガ爲ニ自由トナリタルヨリ漢水水路トノ接續ヲ完備セシメントシテ倉庫并ニ製造業ヲ此處彼處ニ建設スルモノ多ク製造所ニハ停車場ノ上流約四清里ノ處ニ赤色煉瓦製造所其上流四五清里石橋口ノ上流ニ製粉會社（上海ナル支那製粉會社ノ支社）石油貯藏所等アリ又其附近ハ貧民ノ茅屋點々タル寒村ナリシガ商民ノ移住スルモノ漸ク多ク一市街ヲ形成スルニ至レリ以テ其一斑ヲ察スルニ足ラン

附、京漢鐵路買收說

京漢鐵道ガ此ク支那ニ重キヲナスニ拘ハラズ其實權ノ外人ニ在ル事ノ支那ノ爲メ不利益ナルハ

何人モ口ニスル所ナリシガ明治四十年一月郵傳部堂官ハ「京漢鐵道ハ全中國中ノ一大幹線ニシテ北ハ關内外鐵道ニ通ジ南ハ粵漢鐵道ニ接シ西ハ川漢、道清、正太等ノ各鐵道ニ連リ節々相連絡セルヲ以テ之ヲ贖收シテ自管ト爲サレバ他ノ鐵道ト疏通面白カラズ且該鐵道ハ十年ヲ以テ贖還期ニ達スレバ一日モ早ク回收シテ自管トス可シ」トテ之ガ辦法ヲ講究シテ張之洞ニ諮リ又新ニ任ゼラレタル郵傳部侍郎吳重燾モ自ラ之ガ辦法ヲ調査シ又一面鐵路買收ノ爲メ委員ヲ派遣シテ米國及南清各地ノ支那人ヲ勸誘シテ資金ヲ募集スルコトニ決セリト然レドモ其後ノ報告ニヨレバ英清公司ハ京漢鐵道買戻費貸與ノ契約ヲ郵傳部ト取リ結ビ皇帝ノ認可ヲ得タリト尙該公司ハ各省鐵道ニ資金ヲ貸與シ且ツ材料技師等ヲ供給セント運動中ナリト云フ

第四節 粵漢鐵道

第一款 沿革

四百餘州ヲ東西ニ橫斷スルモノハ千五百里ノ長流楊子江ニシテ南北ヲ縱貫スルモノハ京漢、粵漢一千五百哩ノ鐵道ナリ即チ支那ノ交通ハ十字幹線ト幾多ノ運河支流及數條ノ鐵道支線ニヨルモノト謂ハザルベカラズ然ルニ北京漢口間七百八十哩ハ已ニ白耳義「シンデゲート」ノ名ヲ以テ露佛ノ布設スル所トナリ支那ノ運命ヲ司ル大線ノ一半既ニ世界ノ野心國タル露佛ノ管下ニ在

リザレバ支那タルモノ豈又他ノ一半ノ幹線ヲ自國ノ管下ニ置クノ必要ヲ知覺セザルノ理アラシヤ漢口賡東ノ鐵道即チ是ナリ然ルニ其通過スベキ湖南ハ支那ノ小日本ト稱セラレシ地ニシテ攘夷ノ論盛ニ志士ノ間ニ唱ヘラレ文明ノ利器ヲ忌ム事蛇蝎ノ如ク而シテ佛國ハ安南、東京ノ設計着々進行スルノ勢ニ乗ジ廣東、湖南ヲ經テ漢口ニ鐵路ヲ通シ京漢鐵道ト聯絡セシメテ其吞噬ノ欲ヲ逞ウセントシ米國ハ其布設權ヲ爭フアリ支那政府ノ疾首スル所タリシガ豈圖ランヤ時運一轉シテ偶々泰西ノ文物湖南ニ唱道セラレ復タ文明ノ利器ヲ忌ム事ナク攘夷ノ精神變シテ愛國ノ情トナリ貪婪壓ク無キ佛國ノ強慾ヲ制セント決シ憤然トシテ此鐵道ヲ布設セン事ヲ政府ニ稟請セリ其大略ニ曰ク佛人ノ廣西鐵道ハ既ニ龍州ニ到レリ是ヨリ將ニ湖南ニ入り直ニ漢口ニ至ラントス然ラハ則チ廣西ヨリ廣東、湖南ニ至ラントスル我鐵道ノ利權ハ全ク彼ノ奪フ所トナラン況ヤ佛領西貢ハ香港ヨリ西洋ニ近ク東西洋往來ノ汽船ト貨物ハ將ニ此ヨリ上陸シテ我國ノ腹心ニ至ラントス之ヲ防止スルノ法湖北、湖南ヨリ廣東ニ至ル鐵道ヲ布設スルニ如クハナシ中ニ大河ノ隔ツモノナク郴州ヨリ騎田嶺ヲ越ユレバ王之春ノ修メタル小道アリテ甚ダ平坦ナリ要スルニ其工事京漢鐵道ニ比スレバ頗ル易ク利益モ亦多シ是ヲ以テ株式ノ募集ニ應ズル者極メテ多ク資本ハ各處ニ得ラルベシ云々ト政府ハ直ニ之ヲ納レ支那ノ資本ヲ以テ湖南ヲ通シ廣東武昌間七百十哩ヲ布設スル事ニ決シ一千二百萬兩ノ株式ヲ募集シ得タルモ尙四百萬磅ノ不足ヲ生ジタレバ

露佛ノ關係ヲ避ケンガ爲ニ米國ヨリ外債ヲ募集スル事ト定メ千八百九十八年四月十四日駐米清國公使伍廷芳ト米國支那開發會社(美華啓興公司)トノ間ニ四百萬磅ノ借款契約ヲ商議締結スル事トナレリ其條約ノ要點ヲ譯出スレバ左ノ如シ

粵漢鐵道合同契約(米國支那開發會社)アメリカン・チャイナ・デベロップメント・カンパニー
光緒三十四年三月二十日
一千八百九十八年四月十四日

說 明

北京漢口間ノ鐵道布設ハ一千八百九十八年白耳義^シンデゲート^ニガ之ヲ受負フコトニ決シタレハ清國ハ更ニ進ンデ漢口廣東間ノ鐵道ヲ敷設シ以テ南北縱貫大幹線ヲ全ウセント計畫スルニ當リ其資力ヲ内外ニ求メント欲シ一面ニハ株券ヲ發行シテ民間ヨリ資金ヲ募集シ一面ニハ米國支那開發會社ヨリ四百萬磅ヲ借入ル、コトニ決セリ本契約ハ即チ其外債ニ關シテ彼我ノ權利義務ヲ規定シタルモノニシテ一千八百九十八年四月十四日同會社代表者ト在米清國公使伍廷芳トノ間ニワシントン府ニ於テ締結セルモノナリ

廣東漢口間即チ粵漢鐵道ハ廣州府ニ其端ヲ發シ北江ニ沿ウテ湖南省ニ入り湖北省漢口ニ終ルモノナリ其終點タル漢口ハ蘆漢鐵道契約章中ニ説明スル如ク古來九省ノ會ト稱シ支那中原ノ貿易中心ニシテ其發端タル廣州ハ東洋第一ノ貿易港タル香港ニ近ク南清開港場中最モ繁昌ノ地ナリ而シテ其沿道廣東、湖南兩省ハ土地廣クシテ地味肥エ物產豐饒殊ニ金、銀、鐵、石炭等ノ礦物